

インドネシア・スマトラ島沖 50km 定点におけるウミアメンボ生息様態、

生息種、形態的特徴

○原田哲夫・馬本典交・古木隆寛（高知大・院・環境生理）・大岡航（京都大学・医・人間健康）・中城満（高知大・院・理科教育）・片桐千仞（東京電気大）・Vladimir Košťál (Czech Academy of Sciences)

海洋地球研究船「みらい」による研究航海(MR15-04 次航海)で行われたニューストンネットによるウミアメンボサンプリング（11月23日から12月14日，3日毎，対水2ノット，15min x 3セット，夜間19時～20時）によって，4種類のウミアメンボが採集（*Halobates germanus*=センタウミアメンボ（センタ），*H. micans*=ツヤウミアメンボ（ツヤ），*H. princeps*（主に沿岸近くに生息），*H. sp.*=未記載種）された。この*Halobates*属未記載種との判断は，Andersen & Cheng (2004)による総説を基にしており，これの Appendix にある検索表に照らし合わせた結果である。*Halobates*属の中では，比較的大型(成虫で約5mm)で，幼虫は瓢箪型の体型を持ち，雌成虫は頭部から胸部にかけて出っ張った“おむすび型”の形状を持っていた。本定点ではセンタが圧倒的に優占していた。

平均生息密度は幼虫が11651.1頭/km²，成虫が11553.5頭/km²であった。種毎の内訳は，ツヤが748頭/km²，センタが20210.5頭/km²，*H. princeps*が32.5頭/km²，未記載種が2213.1頭/km²であった。センタの2万を超える生息密度を他の海域と比較すると，東熱帯インド洋（8°N-6°35'S, 86°E-76°36'，白鳳丸航海：KH-07-04-Leg 1）で2506.1頭/km²，同じく東熱帯インド洋（01°55'S, 083°24'E; 8°S, 80°30'E，みらい航海：MR11-07-Leg 1）で2485.1頭/km²，中央熱帯太平洋（01°55'N 150°31'E，みらい航海：MR12-05-Leg 1）で99512.7頭/km²，西部熱帯太平洋（12°00'N 135°00'E，みらい航海：MR13-03）で11688.1頭/km²，中央亜熱帯太平洋（25°00'N 160°00'E，白鳳丸航海：KH-15-02）で0頭/km²，西部熱帯太平洋（10°N-05°S 130°E-160°E，みらい航海：MR14-06-Leg 2）で17160.6頭/km²であった。今回の密度は比較的高く，センタは島嶼近くを主な生息海域とし，沿岸近くでは高い密度で個体群を維持していると考えられる。また，1晩（45分曳き）で12頭から330頭まで採集個体数に差があり，生息密度の偏差が大きかった。ウミアメンボ類は海面に万遍無く生息しているのではなく，潮がぶつかる場所や，浮遊物が多く産卵場所や餌が豊富な場所に集中的に生息していると考えられる。今航海で採取された全採集個体の体長、体幅、頭幅を測定したので，齢数検討や種間の形態的比較を行い報告する。